

卓球冥利に尽きる 卓球を通じてボランティア活動に 励んでいます

卓球を始めた頃

私が卓球を始めたのは小学校の高学年だったと思います。当時流行っていたのはボートボールと卓球でした。20分間の休憩時間と給食後の長い休み時間には皆が体育館へ行きました。もちろん当時は「ピンポン」であり、1本ミスをするとか代です。自分の順番が来るまで少しづつ動きながら待ち、たくさん打つにはミスをしないことが条件でした。

正式には中学校で部活動に入ったことから今に至っているわけですが、二つ年上の姉は卓球部の先輩でした。また、毎日一緒に登下校する近所の幼なじみとのお姉さんも卓球部でした。その他の部活動がないわけではありませんが、迷うことなく卓球を始めたいということになります。

兄は野球部でしたが、我が家の車庫には

事務机を2つ並べた卓球台があり、兄・姉そして近所の仲間でピンポンをしていたことも懐かしく思い出されます。

卓球の経験が長いといっても私の腕前は強くはありません。しかし、現在もまだ卓球に関わっているのですから、これまでの「卓球人生」の1ページ「卓球冥利に尽きる」お話をさせていただきたいと思っています。

新潟市役所に入った頃の私の仕事

市役所に入ったのは昭和60年の国勢調査の年でした。5年に一度の大調査で、準備や集計結果に前後3年以上の月日を費やします。私は準備の整ったところに入庁したのですが、毎日の仕事は地図作りから。明細図をコピーして切り貼りし、1人の調査員ごとに担当する地域にマークを付けるという地道な作業でした。おかげで「切り貼り」

が得意分野となりました。もちろん、今ではパソコンから直ぐに地図が印刷できる時代になりました。

次に、地域に出向き市民調査員の方への説明会に動き回りました。私が担当する部分の説明について予行練習をした時、いつもの早口さらに加速がついて40分間の持ち時間に対して15分で話し終わりました。大笑いと共に先輩からは呆れられたのですが、それでも「おけいちゃんは一生涯懸命練習をしていた」と励ましていただき、新人職員の本番デビューは大成功となりました。

国勢調査の日が終わると集計作業となります。1人の職員と数名の臨時職員とで班体制となり日夜調査票との闘いに追われました。

また、他の仕事として、市職員へのパソコン研修の講師をしました。私自身、仕事に着いてから初めてパソコンを触ったという



三林 けい子

新潟市西区役所保護課

【さんばやし けいこ】1962年新潟市生まれ。東北福祉大学卒業後、1985年新潟市役所入庁。「新潟市役所卓球部」部員、「新潟市役所ボランティア研究会」代表、「新潟発→カンボジア支援プロジェクト730」代表、「21世紀のカンボジアを支援する会」理事。



2014年10月、
新潟市役所卓球部として
全国市役所卓球大会に出場

レベルでしたが、テキストを見ながら短時間で必死に勉強したことも良い思い出となっています。

当時の「人の前に立つ・説明をする」という職務を通じて私は成長し、現在のさまざまな活動に役立っていると思います。

趣味は二つ。

まずは市役所二輪愛好会に入って

さて、仕事が忙しくても暇を見つけ、好きなことは休んでいなかったようです。

私の趣味は二つありました。一つは「バイク」です。大学に入り原付バイクを買って通学に使っていました。お金がなかったからなのかどうか覚えていませんが、仙台から新潟まで原付バイクで帰省したことがありました。バイク道を走り県境を越えようとした

ことができず、誰も走っていない細い山道の峠越えをしなくてはならなかった時はとても心細かったです。携帯電話もなかった当時、途中から雨が降りビニール合羽を着て濡れながら走りきり家に辿り着いた時、母がお風呂を沸かしてくれていて、大きなおにぎりを用意して待っていてくれました。これは今でも仲間うちで話題になる私の事件簿になっています。

その後、中型二輪免許を取り卒業旅行として九州へのバイク一人旅を楽しみました。仙台を出発し南へ向かって国道を走っていると、1台のトラックと追いつきつづきが続きました。信号で止まっては顔を合わせ、休憩場所です話をすると、「バイクを荷台に載せてやるから、トラックの隣に乘らないか」と声をかけてもらいました。こんなヒッチハイクもあるんだと思いました。

これらのエピソードを知った職場の方からの誘いで、私は「市役所二輪愛好会」に入りました。会では休みの度にツーリングに出かけ、「おけいちゃん、あの道はスピードを出しちゃダメだよ」「カーブは視線を前にして走るんだよ」と先輩から走り方のマナーを教えてもらいました。県外へのお泊りツーリングではワインを荷台に入れて走り、夜はペンションで乾杯をしました。日曜日は十数台のバイクで千鳥足型に並んで走ったこともとても楽しかったです。

しかし、今ではバイクを手放し宴会部員となつてしまいました。仲間たちの旅行話、バイク自慢を聞くのも楽しいですが、機会があればまたバイクに乗りたいと思っています。

市役所卓球部に入って 卓球を通じて

私のもう一つの趣味は「卓球」です。「市役所卓球部」への入部のきっかけはよく覚えていませんが、やはり誘っていたいて練

習会に参加したのだと思います。

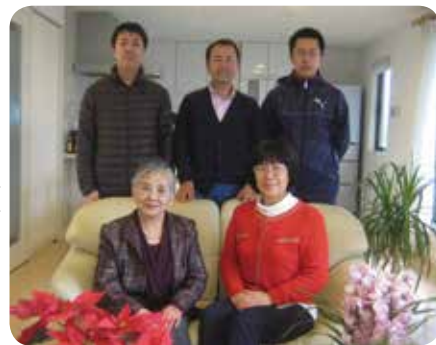
新潟市体育館内の小さな練習場で、平日週1回2時間の練習会が年間通して設定されています。指導者はいませんが前半は基本練習、後半は試合という形式をとっています。市役所関係の大会前は多くの部員が練習会に集まりますが、冬の期間は参加人数が減ってきます。各部員は他のチームにも所属しており、各種大会にはそれぞれの所属チームから出場しています。卓球連盟への登録は所属するチームでしており、市役所卓球部は年間2つの大会に出場します。その時に選手が集まり交流を深めています。

市役所卓球部の二大会

大会の一つは夏に開催される「20市職員スポーツ大会」です。新潟県内にある20の市役所の対抗戦で男女共に優勝を目指して出場します。

平成の大合併までは、20市職員スポーツ大会で女子は出場チームの中でも新潟市・長岡市・豊栄市の3市が毎回優勝争いをしていました。前年の成績をもとに組み合わせが決まりますので、準決勝で戦わないよう組み合わせ表を見ては一喜一憂していました。そんな中、平成の大合併で新潟市と豊栄市は一つになりました。今までのライバルが味方、チームメイトになったのです。お互い笑顔で合流し、しばらくは決勝進出が続きました。

しかし、女子チームの悩みは新しい部員



義母から息子たちまで
卓球家族です

が入ってこないことです。団体戦に出るための規定の人数が揃わず、残念ながら出場できない事態となつてしまいました。人材の発掘と初心者でもOKという看板を掲げて、選手獲得に尽くさなくてはなりません。

もう一つの大会は秋に開催される「全国市役所卓球大会」で、全国各地の開催市へ遠征に出かけます。北は青森、秋田、岩手へ、南は高知、

広島と行きました。私も出場を始めてから20年となりました。その分年齢も重ね、旧豊栄市職員だった先輩選手は市役所を退職されました。とは言ってもこの大会はOBの参加も認められていますので、今でもチームの一員として一緒に上位入賞を目指して頑張っています。卓球は生涯スポーツですから、生涯現役で活躍できるのが魅力の一つです。

卓球部での出会い

私が縁あつて卓球部に入り練習会に参加して2回目のこと、仕事を終え次々と練習場に入ってくる部員の中で「今晚は〜」と元気よく挨拶して入ってきた男性がいました。第一印象がとても良くて気に入った私は、大会のシーズンが終わった冬、その彼をデートに誘いました。とても真面目で誠実であり、その場を盛り上げる力を持っていました。

その彼を私の父に会わせると「お前は結

婚しないという約束で大学に入ったんだ」などと一言いいながらも、決め酒を飲ませてくれ、直ぐに結婚が決まりました。

夫は現在市役所卓球部の部長をやっています。私たちには2人の男の子がいますが、それぞれ社会人と大学生になった今も現役の卓球選手として活躍しています。また同居している義母も亡き義父と若い頃デートで卓球をしていたとのこと。ですから我が家は卓球家族なのです。

「スペシャルオリンピックス」を知っていますか

「スペシャルオリンピックス(SO)」とは、知的障がいのある人たちにスポーツ活動を提供し、社会参加を応援する国際的なスポーツ組織です。日本では20年前に発足、新潟では10年前から活動が始まりました。

「スペシャルオリンピックス日本」の名誉会長である細川佳代子さんとは別の活動で知り合いました。18年前、東京で開催されていた「AC公共広告展覧会」を見学した際、私が一番気に入ったのが「世界の子どもにワクチンを 日本委員会」の広告でした。すぐさまこの事務局へ向かい、細川代表の新潟講演をお願いしました。翌年、講演会が終わりに一緒に食事していると「今、スペシャルオリンピックスの活動をしているのだけれど、なかなか普及しないの。新潟にできたら手伝ってほしいね」と言われたのでした。当時私は障がいのある方たちとの付

き合いはありませんでしたが、新潟で設立準備会の発表会があることを知り駆けつけ、「卓球の担当をします」と申し出ました。

あれから10年、新潟にはスペシャルオリンピックスの卓球プログラムが3か所に増えました。私はその統括と代表コーチをしています。毎月2回アスリートと共に卓球の腕を磨き、年1回地区競技会を開催しています。

全国的には4年に1回、ナショナルゲームが夏季と冬季に開催されます。平成28年2月には新潟県で冬季ナショナルゲームが開催されます。一人でも多くの人に知ってもらい、ボランティアとして大会に関わっていただきたいと思っています。

カンボジアでのボランティア活動

その他、私は「新潟市役所ボランティア研究会」の代表として、市職員へボランティア活動の紹介と啓発活動を行っています。これは14年前、「カンボジアの子どもたちへ学用品を送ろう」という活動から始めたのですが、今では毎年現地へ出向き、直接子どもたちへの支援活動をしています。

現地では同時に卓球の普及活動もしています。最初の頃は卓球用具を持参し、訪問した村の小学校で机を並べてピンポンで遊ぶくらいでした。しかし、6年前、日本の資金で児童養護施設「夢ホーム」が設立されたことを機に、日本から船便で卓球台を運び、夢ホーム「卓球チームさんば」を立ち上げました。



カンボジアのトントラッチ村に設立された「トントラッチにいがた小学校」。ここで子どもたちと過ごすことが、私の定年後のプランです



施設の中で卓球大会を開催するうちに、施設の外に対戦相手を求めるようになり、した。インターネットで「カンボジア 卓球」と検索すると「フリースクール愛センター」がヒット。ホームページを見ると卓球で遊ぶ子どもたちの様子がわかったので、私はさっそく連絡をとりました。

「ライバルがいてこそ大会が面白くなる」。その言葉どおり、「フリースクール愛センター」との卓球大会はとても賑やかなものになりました。回を重ねて第6回大会では、首都プノンペンのオリンピックセンターを会場



トントラッチ村にて「卓球チームさんば」を立ち上げたいと計画しています

としてお借りしました。将来のオリンピック選手を目指す子どもたちには希望があります。私はこれからも子どもたちを応援していきたいと考えています。

なお、カンボジアでの卓球用品は全て日本の卓球用品メーカー「日本卓球・ニッタク」にスポンサー協力をお願いし、寄付していただいています。

トントラッチにいがた小学校

平成26年夏、プノンペンから車で2時間のところにあるトントラッチ村に「世界の恵まれない地域に小学校を作る会」(新潟市)からの寄付で新しい小学校が完成し、「トントラッチにいがた小学校」と名付けられました。

旧校舎は窓、ドアがなく、天井には穴が開き、床は大きな石コロがある状態ですが、校長先生の「壊したくない」との意向をくんで二つの教室を修復する計画です。その

うちの1室は卓球室と図書館にして、「ドラえもんルーム」と名付けることにしました。修復して雨が入らなくなったら新しい卓球台を入れる計画で、それまでの間は机を並べた簡易卓球台で遊んでもらいます。もう1室は先生たちの教務室で「アンパンマンルーム」と名付けることにしています。

私は定年退職後のプランとして、カンボジアに移り住み毎日子どもたちと過ごすことを考えています。カンボジアの子どもたちが、卓球が上手くなり、日本語が上手く話せるようになれば、いろんなチャンスが生まれやす。子どもたちに夢と希望を持つてほしいと考えています。

おわりに

「自分には何ができるだろう」「何がしたいのだろう」と考えると周りの理解、応援がなくてはできないことがあります。それを伝えていくには広報活動、つまり「気持ちを述べよ」が大事だと考えます。黙っていては伝わりませんし、また、気持ちを述べていればチャンスが訪れるかもしれません。その時に即応できるよう、常に前向きな考えを持つようにしています。

私にとって、卓球を通じてボランティア活動ができるなんてとても素敵なことです。卓球冥利に尽きます。私は皆様のご支援とご協力をいただきながら、今日も動き回っています。どこかでお会いできることを楽しみにしております。